

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第1区分
 【発行日】平成18年11月2日(2006.11.2)

【公開番号】特開2005-227005(P2005-227005A)
 【公開日】平成17年8月25日(2005.8.25)
 【年通号数】公開・登録公報2005-033
 【出願番号】特願2004-33054(P2004-33054)
 【国際特許分類】

G 0 1 V 1/00 (2006.01)

G 0 6 Q 10/00 (2006.01)

【F I】

G 0 1 V 1/00 D

G 0 6 F 19/00 1 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成18年9月8日(2006.9.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

地震計により感知した地震データから得られるリアルタイム震源情報のデータを取得する震源情報取得手段と、
 地震情報を報知する位置情報のデータを保持する位置情報保持手段と、
 前記震源情報取得手段により取得されたリアルタイム震源情報と前記データ保持手段に保持された位置情報のデータに基づき前記位置における地震の主要動到達時間と予測地震強度を演算して求める演算手段と、
 前記演算手段により求めた地震の主要動到達時間と予測地震強度の値を複数に区分しそれぞれ異なる色と点灯・点滅状態により表示する表示手段と
 を備えたことを特徴とする地震情報報知装置。

【請求項2】

地震計により感知した地震データから得られるリアルタイム震源情報のデータを取得する震源情報取得手段と、
 地震情報を報知する位置情報のデータを保持する位置情報保持手段と、
 前記震源情報取得手段により取得されたリアルタイム震源情報と前記データ保持手段に保持された位置情報のデータに基づき前記位置における地震の主要動到達時間と予測地震強度を演算して求める演算手段と、
 前記演算手段により求めた地震の主要動到達時間と予測地震強度の値を複数に区分しそれぞれ異なる色と点灯・点滅状態により表示する表示手段と、
 前記演算手段により求めた地震の主要動到達時間と予測地震強度の値を複数に区分しそれぞれに応じた音声により出力する音声出力手段と
 を備え、前記地震の主要動到達時間と予測地震強度を表示と音声により報知することを特徴とする地震情報報知装置。

【請求項3】

前記音声出力手段は、前記地震の主要動到達時間と予測地震強度の値を複数に区分しそれぞれ周波数、音程、大きさのいずれかに対応させた音声により出力することを特徴とする請求項2記載の地震情報報知装置。

【請求項 4】

前記音声出力手段は、前記地震の主要動到達時間と予測地震強度の値を複数に区分しそれぞれ対応する音声メッセージにより出力することを特徴とする請求項 2 記載の地震情報報知装置。

【請求項 5】

前記表示手段は、前記地震の主要動到達時間と予測地震強度の区分をそれぞれ縦方向と横方向の領域を割り当てかつ前記領域を異なる色と点灯・点滅状態により表示することを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の地震情報報知装置。

【請求項 6】

前記表示手段は、前記予測地震強度の区分をそれぞれ縦方向又は横方向の領域と異なる色を割り当てかつ前記領域を前記地震の主要動到達時間の区分に応じた点灯・点滅状態により表示することを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の地震情報報知装置。

【請求項 7】

前記表示手段は、前記地震の主要動到達時間のカウントダウン表示と前記地震の主要動到達時間と予測地震強度の区分表示とを併用することを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の地震情報報知装置。

【請求項 8】

地震計により感知した地震データから得られるリアルタイム震源情報のデータを取得する震源情報取得手段と、
地震情報を報知する位置情報のデータを保持する位置情報保持手段と、
前記震源情報取得手段により取得されたリアルタイム震源情報と前記データ保持手段に保持された位置情報のデータに基づき前記位置における地震の主要動到達時間と予測地震強度を演算して求める演算手段と、
前記演算手段により求めた地震の主要動到達時間と予測地震強度の値及び前記リアルタイム震源情報の震源位置情報と前記報知する位置情報に基づく相互の位置関係を表示する表示手段と
を備えたことを特徴とする地震情報報知装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】地震情報報知装置

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

【特許文献 1】特開 2003 - 066152 号公報

【特許文献 2】特開平 08 - 320381 号公報

【特許文献 3】特開平 09 - 063302 号公報

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

そのために本発明は、地震計により感知した地震データから得られるリアルタイム震源情報のデータを取得する震源情報取得手段と、地震情報を報知する位置情報のデータを保

持する位置情報保持手段と、前記震源情報取得手段により取得されたりリアルタイム震源情報と前記データ保持手段に保持された位置情報のデータに基づき前記位置における地震の主要動到達時間と予測地震強度を演算して求める演算手段と、前記演算手段により求めた地震の主要動到達時間と予測地震強度の値を複数に区分しそれぞれ異なる色と点灯・点滅状態により表示する表示手段とを備えたことを特徴とし、さらに、前記演算手段により求めた地震の主要動到達時間と予測地震強度の値を複数に区分しそれぞれに応じた音声により出力する音声出力手段とを備え、前記地震の主要動到達時間と予測地震強度を表示と音声により報知することを特徴とする。

また、前記音声出力手段は、前記地震の主要動到達時間と予測地震強度の値を複数に区分しそれぞれ周波数、音程、大きさのいずれかに対応させた音声により出力し、それぞれ対応する音声メッセージにより出力することを特徴とし、前記表示手段は、前記地震の主要動到達時間と予測地震強度の区分をそれぞれ縦方向と横方向の領域を割り当てかつ前記領域を異なる色と点灯・点滅状態により表示し、前記予測地震強度の区分をそれぞれ縦方向又は横方向の領域と異なる色を割り当てかつ前記領域を前記地震の主要動到達時間の区分に応じた点灯・点滅状態により表示し、前記地震の主要動到達時間のカウントダウン表示と前記地震の主要動到達時間と予測地震強度の区分表示とを併用することを特徴とする。

また、地震計により感知した地震データから得られるリアルタイム震源情報のデータを取得する震源情報取得手段と、地震情報を報知する位置情報のデータを保持する位置情報保持手段と、前記震源情報取得手段により取得されたりリアルタイム震源情報と前記データ保持手段に保持された位置情報のデータに基づき前記位置における地震の主要動到達時間と予測地震強度を演算して求める演算手段と、前記演算手段により求めた地震の主要動到達時間と予測地震強度の値及び前記リアルタイム震源情報の震源位置情報と前記報知する位置情報に基づく相互の位置関係を表示する表示手段とを備えたことを特徴とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明によれば、地震の主要動到達時間と予測地震強度の値を複数に区分しそれぞれ異なる色と点灯・点滅状態により表示し、さらには、地震の主要動到達時間と予測地震強度の値を複数に区分しそれぞれに応じた音声により出力するので、地震の主要動到達時間と予測地震強度からなる地震情報を視覚により、さらには音声により迅速かつ正確に伝達することができる。よって、地震の主要動到達前の極めて短い時間をより有効利用でき、地震による被害の軽減を図ることができる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

また、地震の主要動到達時間と予測地震強度の値及びリアルタイム震源情報の震源位置情報と報知する位置情報に基づく相互の位置関係を表示することにより、震源地と地震情報を報知地点との位置関係が明確になる。